（二〇一二年度）

3 国語問題（六〇分）

（この問題冊子は20ページ、三問である。）

受験についての注意

一、監督の指示があるまで、問題冊子を開いてはならない。
二、携帯電話・ＰＨＳの電源は切ること。
三、試験開始前に、監督から指示があったら、解答用紙の右上の番号が自分の受験番号かどうかを確認し、氏名を記入すること。次に、解答用紙の右側のミシン目にそって、きれいに折り曲げてから、受験番号と氏名が書かれた切片を切り離し、机上に置くこと。
四、監督から試験開始の合図があったら、この問題冊子が、右に記したページ数どおりそろっているかどうか確かめること。
五、**解答は解答用紙の各問の選択肢の中から正解と思うものを選んで、そのマーク欄をぬりつぶすこと。**その他の部分には何も書いてはならない。
六、筆記具は、**ＨかＦかＨＢの黒鉛筆またはシャープペンシル**に限る。万年筆・ボールペンなどを使用してはならない。時計に組み込まれたアラーム機能、計算機能、辞書機能などを使用してはならない。
七、マークをするとき、枠からはみ出したり、枠のなかに白い部分を残したり、文字や番号、枠などに○や×をつけたりしてはならない。
八、訂正する場合は、消しゴムでていねいに消すこと。**消しくずはきれいに取り除くこと。**
九、解答用紙を折り曲げたり、破ったりしてはならない。採点が不可能になる。
十、試験時間中に退場してはならない。
十一、解答用紙を持ち帰ってはならない。
十二、問題冊子は必ず持ち帰ること。

AK-A-03

一

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

観光客がフィジーに降り立つと、海、街の建物、交差点の信号が目に入る。海は仮に無人島でも変わらぬままの自然であろう。建物は住む人々の生活を反映したもので、観光客はその佇まいにフィジーの社会や文化を感じるであろう。けれども、屋根の色遣いに或る感慨を覚えても、一時的客であってフィジー社会の成員ではないゆえに、屋根の色に宗教に関わる意味があることを知らずに済む。あるいは、知ったとしても、それらの建物に自分が入る機会があった場合に自分がどう振る舞えばよいか分かるわけではない。分かるには、社会の内部に入って諸々の価値が織り成す体系の襞々のさまざまなニュアンスを嗅ぎ分けることができるようにならなければならない。信号はどうかと言えば、旅行客も信号の赤や青の意味はすぐに分かるし、また分かるのでなければ困る。

信号の色とその色の機能は万国共通だ、ということだろうか。いや、重要なのは、[1]信号の意味の働き方である。信号は明解な、手続き的と言ってもよい機能に徹し、人々の行動を制約し導くべく制定された意味を担っている。信号のお蔭で人々の行動は秩序だったものになる。けれども、この秩序は確かに社会秩序の一つを成しはするが、[2]表層的なものと言ってもよい。別の言い方をすれば、こうである。信号機の設置は、車の普及や信号の設置・運用コストを負担できる社会の経済力等を背景にして初めてなされ社会の有りようから切り離せないが、そうだとしても信号の色の意味が関わる円滑な交通という価値と秩序は、それだけを取り出しても明確な内容をもつ。その内容は単純なルールであり、だから人は簡単にマスターし得る。フィジーの住人でない観光客も信号の色が意味するところに従って易々と秩序を乱さない適切な行動が取れる。そして、その点で便利なものであるが、同時に、[3]従うことを人に強制するものでもある。

ただし、「単純なルール」と言ったが、実は信号を設置する側からすれば、そこには守るべき複雑なルールがある。設置する場所の交通量、信号機の規格、関わる行政組織の持分等。ただ、これらは制度を管理する側の専門家が弁えていればよい。そして、これら複雑なルールと人々が信号に従って通行すべきという単純なルールの側と両方を引っくるめて制度と言ってよ

い。制度の目標はできる限り明確な内容の秩序を手続き的に構築できるようにすることにある。屋根の色が関わる文化の総体が曖昧なのと対比的である。

さて、信号による交通の円滑化という表層的なものを話題にするところから始めたが、一つひとつはそれとして明確な輪郭をもつ小さな制度も、結局は複雑で巨大な制度の断片でしかあり得ない。信号機設置の社会背景に言及したが、そこにも、道路の建設、保守・管理、費用負担のための税制等、制度的構造物がある。そして、制度は細部についてはともかく総体としては人々が簡単には変更しがたい人々の行動の枠組みとして機能する。この枠組みに関して重要なのは、[4]枠組みは人によって違ったふうに作用するということである。交通法規のように表層の制度ならすべての人々に同じ仕方で働くかに思われる。けれども、常に歩行者でいる高齢者と車を乗りまわす人とで恩恵と制約や不都合とは違った仕方で分配される。(言い換えれば、違った価値事象として人々に現われる。)踏み切りは列車を優先する。まして、制度を機能させてゆくに不可欠な税等の負担において、人々の不均衡が著しくなかった社会がどの地域、時代でもあったためしがない。制度は、その発生においていわゆる権力の生成と富の分配、それらの整備・安定化、と結びついているからだと言ってもよい。ただ、制度一般が社会の安定に寄与するのは間違いなく、そこで、そこに制度の当然視が生まれると、それは[5]先に述べたイデオロギーの生成とその意味の力による作用という事態として、制度と違って曖昧な文化の中へと溶け入ってゆく。

制度という枠組みは、人々にとって言うなれば外側の形式である。翻り、文化はさまざまな価値の混淆(こんこう)的な提示として曖昧であるが、そのあれこれの価値に関わろうとする人の営みを通して人の内に入り込み養分ともなるものである。また、制度は増殖し、変形してゆく固有の運動をもつが、その手続き的な性格ゆえに硬直性をも宿命としてもつ。一方、文化は人々の営みを通して新たな価値事象を己に加えゆき、代わりに、人々の関心を引かない価値は力を失ってゆく、そういう無定形な変容のうちにある。

文化の曖昧さ、無定形さ、人の内面に溶け入るさまは、先に考察したフィジーの建物の屋根の色を再び例に取れば、色は宗教や民族のシンボルであって、小さな制度としての信号の色が指示記号であるのとは違う、というところにみることができ

る。[6]シンボルは集団の文化、歴史、伝統につながれて、そして、つながれている限りで、人々にさまざまな想いを懐かせる。或るものは人にアイデンティティを供給する一材料にすらなる。

先に、屋根色の意味が本当に分かるには「社会の内部に入ってゆく」[7]等の必要があると述べた。分け入り方は人によって千差万別であるが、それは内面化の過程としてしか果たされない。制度のもとの人間であることに内面を持ちだす必要はない。制度によって制約されたり制度を利用したりする行動の形式が問題であるだけである。そして、だから或る社会の一員ではなくとも、人は制度面を通じてその社会と適切に関係をもち得る。しかるに、或る社会ないし集団の文化に馴染むとき、それはその文化(諸価値の総体)で規定されている限りの社会ないし集団の一員となってゆくとでも言うべき過程を伴っている。ただし、一員であるとか一員ではないとか、きっぱりした線引きなど実はありはしないのであるが。集団の形成を考えるには、ほぼ同じような価値意識を通して結ばれる絆の強さという要素を考慮する必要があるであろう。

ここで、仮に建物の屋根の色と宗教との対応に関する法律が施行されることを想像してみよう。これは制度化だと言える。けれども、[8]おそらくうまくゆかない。建物と宗教との結びつきを生き、活かしている人々は、その結びつきを維持はしたいが、それでもそれは強制されるものではないし、それに或る曖昧さも残しておきたい、何もかも割り切れるものではない、との想いを懐くだろう。手続き化(ないし形式に押し込めること)に抗う要素の部分にこそ、結びつきに活力を与えるものがある。その要素は、これまでの歴史を通じて培われたもの、伝統であったり想い出であったりして人々の内面に入り込む。だから、信号の色と違って屋根の色は、人々の行動を導くのみならず愛着や誇り、ときに苦さなどの諸感情を掻きたてもするであろう。そしてその種の感情的な要素の響き合いが、宗教が一つの価値として生活の中に入り込んだ文化——他のさまざまな価値も含めた混淆、人々が関わっていこうとすることができる諸価値の提示としてある文化——の総体に或る漠たる結合を与え得るし、感情を懐く個人の側には、当人のアイデンティティ生成に幾許かの手助けをするであろう。

屋根色と宗教とのつながりも、信号の色による交通様態の指示も、[9]人為的なものである。だから、その人為の継続がなければつながりも色の意味も消える。だが、前者の場合、人為とは、つながりを一つの表層の現われとしている或る深い諸価値を

生きることそのことであり、後者では、信号の色の指示に従う形式の行動だけ、誰もがその形式において合致すればよい行動だけでしかない。

（松永澄夫「価値・意味・秩序」）

〈注〉屋根の色…「フィジーで、赤い屋根はヒンズー教徒の家や学校、緑はイスラム、黄色はシーク教徒が住む家や集会所であるそうである。」（同書より）

問一　傍線部1と同じ働き方の例としてもっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

a　携帯電話に送られる緊急地震速報
b　登山道の分岐に立てられた道しるべ
c　自動車が鳴らすクラクションの音
d　公共施設に見られる禁煙のマーク

問二　傍線部2の内容としてもっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

a　深い複雑なルールや文化的背景を、できるだけ簡略化することにより制度的に明確に表示しているもの。
b　文化や社会制度の有りようと関係することなく、それ自体として明確な価値と秩序を表示しているもの。
c　複雑なルールや社会の有りようから生じて、次第に単純で明確な意味内容を示すようになっているもの。
d　複雑で巨大な制度と関係するが、それ自体だけでも明確な手続き的意味を示すように特化しているもの。

問三　傍線部3のように言われる理由として適切でないものを次の中から一つ選べ。

a　巨大な制度ではなく表層的な小さな制度だから。

b　単純なルールによる明確な意味の指示だから。

c　個人の感情や想いに関係しない指示記号だから。

d　手続き的な性格によって硬直化した制度だから。

問四　傍線部4の意味としてもっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

a　変更できないルールの枠組みとして機能するが、個人の行動に対しては強制の程度が異なってくる。

b　人間全体としては同じルールに従うことを求めるが、個人にとっては違った価値と感じられる。

c　総体としては同じルールが強制されているが、個人の資質によってルールの適用が異なってくる。

d　社会全体としては人間に一定のルールを強制するが、個人に対しては違った行動の仕方を求める。

問五　筆者は本文とは別の箇所で、「イデオロギーによる規定とは、意味の力による規定である」と述べている。この点に基づいて、傍線部5の意味としてもっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

a　人が意味を理解するとき、社会を安定させる力としての価値に従い、自分で意味のある行動を行おうとすること。

b　人が意味を理解するとき、巨大な制度や構造の中にある自分を自覚し、制度に合う行動を行うようになること。

c　人が意味を理解するとき、自ずと他人と同じような価値評価を行い、それに基づいて行動するようになること。

d　人が意味を理解するとき、制度の必然性をも同時に自覚し、自分もその制度に従って行動しようと意志すること。

問六　傍線部6の本文中での意味としてもっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

a　人が集団や社会と適切な関係をもつために必要な、内面的価値を提示しているもの。

b　たんなる指示記号ではなく、集団のアイデンティティを供給するための社会制度。

c　社会的営みから生じた共通の価値意識によって、意味や帰属を人に示しているもの。

d　人々がそれに感情や想いをもつことによって、社会の文化や伝統となった価値事象。

問七　傍線部7の意味としてもっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

a　明確な形式や制度的な強制とは異なって曖昧さを残してゆくしかない。

b　個人の間での感情的な要素の響き合いによって成立してゆくしかない。

c　供給される材料によって自分がアイデンティティを生成するしかない。

d　文化がもつ意識や感情を自分も共有することで馴染んでゆくしかない。

問八　傍線部8の理由として適切でないものを次の中から一つ選べ。

a　制度化されると人々の感情的な絆が弱まってゆくように思われるから。

b　制度や集団の成員であるかどうかについてはっきりした区別がないから。

c　価値意識は内面化によって馴染むことで培われてゆくものであるから。

d　個人が制度的に関わった結果としての表層的秩序ではないから。

問九　傍線部9の意味としてもっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

a　人間が社会との関係によってつくりあげてきたものである。

b　人間が制度との関係によってつくりあげてきたものである。

c　人間が歴史との関係によってつくりあげてきたものである。

d　人間が宗教との関係によってつくりあげてきたものである。

問十　本文中で筆者が述べる〈文化〉の内容に適合するものを次の中から二つ選べ。

a　社会集団がもっている共通だが曖昧な価値意識

b　人々の感情や関心によって変容されてゆく価値

c　社会の安定化に寄与する深くて総体的な価値事象

d　人の営みによって枠組みが変形してゆくような価値

e　不安定なシンボルによって提示されるような諸価値

f　さまざまな社会的ニュアンスをもっている価値体系

二

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

昔、博打[x]の子の年若きが、目鼻一所に取り寄せたるやうにて[1]、世の人にも似ぬありけり。二人の親、これは、いかにして世[2]にあらせんずると思ひてありけるところに、長者の家にかしづく女[3]のありけるが、顔よからん聟取らんと、母のもとめけるを伝へ聞きて、「天の下の顔よしといふ人、聟にならんとのたまふ」といひければ、長者、悦て、「聟に取らん」とて、日をとりて契てけり。その夜になりて、装束など人に借りて、月は明かりけれど、顔みえぬやうにもてなして、博打ども集まりてありければ、人々しくおぼえて[4]、心にくく思ふ。

さて、夜々行くに、昼ゐるべきほどになりぬ。いかがせんと思ひめぐらして、博打一人[a]、長者の家の天井に上りて、二人寝たる上の天井を、ひしひしと踏みならして、いかめしく恐ろしげなる声にて、「天の下の顔よし[b]」とよぶ。家のうちのものども、いかなる事ぞと聞きまどふ。聟[c]、いみじくおぢて、「おのれをこそ、世の人、天の下の顔よしといふと聞け。いかなることならん」といふに、三度までよべば、いらへつ。「これはいかにいらへつるぞ」といへば、「心にもあらで、いらへつるなり」といふ。鬼[d]のいふやう、「この家の女は、わが領じて三年になりぬるを、汝、いかにおもひて、かくは通ふぞ」といふ。「さる御事とも知らで、通ひ候ひつるなり。ただ御助け候へ」といへば、鬼、「いといとにくき事なり。一言して帰らん。汝、命とかたちといづれか惜しき」といふ。聟、「いかがいらふべき[5]」といふに、しうと[e]、しうとめ、「何ぞの御かたちぞ[6]。命だにおはせば、『たゞかたちを』とのたまへ」といへば、教へのごとくいふに、鬼、「さらば、吸ふ吸ふ」といふ時に、聟、顔をかかへて、「あらあら」といひて、ふしまろぶ。鬼[7]はあよび帰りぬ。

さて「顔はいかが成りたる。見ん」とて、紙燭をさして、人々見れば、目鼻ひとつ所にとりすゑたるやうなり。聟は泣きて、「ただ、命とこそ申すべかりけれ。かゝるかたちにて、世の中にありては、なにかせん。かからざりつるさきに、顔を一たび見え奉らで、大かたは、かくおそろしき物に領ぜられたりける所に参りける、過なり[8]」とかこちければ、しうと、いとほしと思ひて、「このかはりには、我がもちたる宝を奉らん」といひて、めでたくかしづきければ、うれしくてぞありける。「所の悪

しきか」とて、[9]別によき家を造りてすませければ、[10]いみじくてぞありける。

（『宇治拾遺物語』）

〈注〉昼ゐるべきほどになりぬ―この当時の結婚の風習では、結婚が決まると、三晩続けて夫が妻のもとに通い、正式の夫として認められ、披露されたのち、昼も滞在することが許された。

問一　傍線部1「目鼻一所に取り寄せたるやう」の現代語訳としてもっとも適切なものを、次の中から一つ選べ。

a　目も鼻もひとところに集まったような
b　目も鼻もどこかから寄せ集めたように立派な
c　目もとがくっきりし、鼻筋が通っている
d　目や鼻が同じようなかたちをしている

問二　傍線部2「いかにして世にあらせんずる」の現代語訳としてもっとも適切なものを、次の中から一つ選べ。

a　どうして生きていこうか
b　どのようにして人なみの人生を送らせようか
c　どのように人なみの世渡りをしていこうか
d　なんとかしてこの世にいられるようにしてやりたい

問三　傍線部3「かしづく」の現代語訳としてもっとも適切なものを、次の中から一つ選べ。

a　大切に仕えている
b　大切に育てている
c　妻として従っている
d　下女として使っている

問四　傍線部4「人々しくおぼえて、心にくく思ふ」とあるのはなぜか。もっとも適切なものを、次の中から一つ選べ。

a　博打打ち仲間がたくさん集まっているのが、従者のように見えたから。
b　新しく迎えた聟を一目見ようとたくさんの人が集まってきたから。
c　たくさんの従者を引き連れた立派な身分の人間に思われたから。
d　月明かりで顔を隠しているしぐさが風流人のように見えたから。

問五　傍線部5「いかがいらふべき」の現代語訳としてもっとも適切なものを、次の中から一つ選べ。

a　何と答えたらいいでしょうか。
b　何を答えることがありましょうか。
c　何かよい答がありましょうか。
d　何と答えましたか。

問六　傍線部6「何ぞの御かたちぞ」の現代語訳としてもっとも適切なものを、次の中から一つ選べ。

a　なんという顔をしているのですか。

b　顔かたちなど問題ではありません。

c　どういう姿になるのがいいでしょうか。

d　どんな姿をしているのですか。

問七　傍線部7の「鬼」について、同じ内容をあらわしているものを、次の中から一つ選べ。

a　御兄人堀河の大臣、太郎国経の大納言、まだ下らうにて内へまゐり給ふに、いみじう泣く人あるをききつけて、とどめてとりかへし給うてけり。それをかく鬼とはいふなりけり。（『伊勢物語』）

b　宮の、御心の鬼にいと苦しく、人の見たてまつるも、あやしかりつるほどのあやまりを、まさに人の思ひ咎めじや。（『源氏物語』）

c　いとあやしくて、さぐらせ給ふに、毛はむくむくと生ひたる手の、爪長く刀の刃のやうなるに、「鬼なりけり」と、いとおそろしくおぼしけれど、（『大鏡』）

d　女ども、たちまちに、たけ一丈ばかりの鬼になりて、十四五丈、たかく躍り上りて、さけびののしるに、（『宇治拾遺物語』）

問八　傍線部8の「過(あやまち)」の具体的内容の説明としてもっとも適切なものを、次の中から一つ選べ。

a　顔よりも命が大事だと返事したこと。

b　鬼が出るような家に聟に来たこと。

c　鬼に襲われる前に、顔を見せていなかったこと。

d　「天の下の顔よし」の聟でなくなったこと。

問九　傍線部9「別によき家を造りてすませければ」の理由としてもっとも適切なものを、次の中から一つ選べ。

a　鬼が出るような場所はたたりがあるから。

b　親の近くに住むのはよくないから。

c　聟にこわい思いをさせてしまったから。

d　娘に財産を分与したかったから。

問十　傍線部10「いみじくてぞありける」の説明としてもっとも適切なものを、次の中から一つ選べ。

a　聟のやり方は、ほんとうにひどいものであった。

b　聟は、すばらしい暮らしができてよかった。

c　聟もその親も、すべてまるくおさまってよかった。

d　聟は、ほんとうにこわい思いをしたことであった。

問十一　本文中に波線を付したa～eの人物のうち、波線部x「博打（ばくち）の子の年若き」と同じ人物を二つ選べ。

a　博打一人
b　天の下の顔よし
c　聟
d　鬼
e　しうと

三

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

労働しない。機械にふれない。お金を手にもたない。車にのらない。電話に出ないし、かけることもない。料理もしない。[1]ユダヤ教の安息日は徹底している。アメリカの知人が、あるとき発心して厳密にユダヤ教の戒律にしたがいだしたので、とても印象に残っている。その日はお金に触れられないというので立て替えたこともある。

それは日々の雑事を離れて、ひたすら神を想うときでもあるのだろう。もとは主人も奴隷も家畜も、[2]ともに休息することを求める慈悲のしるしでもあったようだ。それはほとんど文明を拒絶することで、この拒絶は厳格で妥協がない。休日もコンピュータから離れられない自分に、こういう安息日を課してみようかと思うことがある。毎日ほぼ切れ目なく、同じ密度の時間をすごしていることへの疑いが浮かぶ。たしかに緊張と弛緩(しかん)の間で、ただ放心し、回想し、眺めているようなこともある。やがて、はたと気づいて、また均一な時間の流れにもどっていく。「もう今年も半分すぎちゃったね」、「早いもんだね」と誰かに相槌(あいづち)をうつときは、そんなふうに「いつのまにか」間断なく流れる時間をとめられない不覚を、おたがいに確かめあっているようなものだ。そのことを口惜しく思うことがある。時間がほしいのでも、足りないのでもなく、ただ時間を別様にすごした[3]い。時間と別の関係を結びたい。時間をせきとめたいわけでも、逆にさかのぼりたいわけでもない。時間が流れるといっても、それが目の前を川のように流れていくわけではない。「もうこんな時間」と気づくときには、そういう時間の数値と、自分の心身がすごした時間との間に断層ができている。[4]そういう時間のからくりから離脱するには、「安息日」が必要なのかもしれない。

今年一月にアメリカの画家アンドリュー・ワイエスが亡くなった。野原にすわった女性の後姿を描いた絵(「クリスティーナの世界」)が知られているが、まったく古典的な具象画と見えて、ことさら興味を引かれたことがなかった。アメリカ絵画なら、むしろポロックやデクーニングのような破壊的な抽象に、ずっと私の関心はむかってきたのである。あるとき知人に、ワイエス画集の中の不思議な一点を見せられたことがある。寂しい丘の斜面に初老の男がひとり横たわっている。穏やかな笑み

を浮かべているようだが、静かな死に顔のようにも見える。上半身から腰にかけて白い雪か砂のようなものに薄く覆われている。腿から下の素足と上腕がのぞいているのが妙に生々しい。生でも死でもない何かが描かれている、という感じである。何もない丘の背景とその上に広がる細い空、男の体を覆う白い堆積、能面のように静かな表情は、どこでもないところを浮遊するひとの印象を与えた。そこには見るものを戸惑わせる奇妙さがあると同時に、優しく視線を吸いこむ感触もある。[5]うかつなことに、こういう絵を描くひとだとは気づいていなかった。

東京で見逃していたワイエスの展覧会を、この春福島県の美術館でじっくり見ることができた。あの「クリスティーナの世界」そのものはなかったが、クリスティーナが小さいときから足に障害があり、家の内外をほとんど這うようにして生きていたことも知った。[6]ワイエスは彼女とその弟アルヴァロの家を毎年訪れて、彼らをモデルに約三十年間にわたって描き続けた。クリスティーナ・オルソンは、おおむね家事を自分でこなし、野菜をとりに外に出るときは野原をゆっくりと這いながら移動した。ワイエスの名高い絵は、そういうアメリカ、メイン州の荒涼とした丘の家に一生住み続けた姉弟とともにあり、そこに流れた時間にまったく密着していたのである。

ワイエスは、自分の生まれたペンシルヴェニア、フィラデルフィア郊外と、メイン州のオルソン家の周囲の人物と風景だけを主題として描き続けた。姉弟があいついで亡くなったあとに、彼は住む人のいなくなった家の中を描く。「アルヴァロとクリスティーナ」と題して、ぼろぼろのドア、道具類、かつては収穫されたブルーベリーが堆く盛ってあった桶、クリスティーナのエプロンなどを描いている。クリスティーナのいた居間のドアは永遠に閉じられた。時間が止まってしまった印象がある。しかし画家は、すでに姉弟とともにあったとき、まったく法外な時間を生きていたのである。当時のアメリカの地方で、あるいは世界のいたるところで、質素で単純に、まったくゆったり自然とともに流れる時間を送った人々は無数にいたにちがいない。ワイエスは、そういう時間の底に、もうひとつの時間を発見した。あるいは絵画を通じて別の時間を創造した。

そこにはとてつもなく長い「安息日」の印象がある。道具、家、部屋、そして少しずつ老いていく人物の時間は、石が風化していく地質学的時間に溶けこんでいる。世界が創造され、まだ人間が存在しなかったときの光景を、もちろん人間は見ること

などできない。けれどもワイエスが描き出そうとしたのは、そういう光景と時間であったかのようだ。人物も静物も、そんな光と時間に透過されて小刻みに震えている。時間がとまったのではなく、人間の時間が消滅している。[7]ワイエスの絵がもたらすその安息日の印象は、一宗教の慣習をはるかに超えて、時間の幻想や欺瞞から私たちを解き放つ。

（宇野邦一「安息日には」）

問一　傍線部1について、「ユダヤ教の安息日は徹底している」とはどういうことか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

a　日常生活を送る上で普通の行為であっても、安息日にはそれを行うことができない。

b　国や地域に限定されず、すべてのユダヤ教徒によって厳密に安息日の戒律は守られている。

c　安息日には世俗的な社会や人間との関係を絶ち、神に祈りを捧げなければならない。

d　安息日には、特に戒律を厳密に遵守しなければならない。

問二　傍線部2の意味としてもっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

a　神と一緒に休息することを、主人と奴隷と家畜が求める。

b　神が、主人のみならず、奴隷も家畜も一緒に休息することを求める。

c　主人が奴隷と家畜に休息を与え、自身と一緒に休息することを求める。

d　主人と一緒に休息できるように、奴隷と家畜が主人に対して休息を与えるように求める。

問三　傍線部3の意味としてもっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

a　一様に流れる時間とは違った時間を過ごしたい。

b　他の人とは共有しない、自分だけの時間を持ちたい。

c　過ぎ去る時間に不安や後悔を覚えないようでありたい。

d　流れる時間を自分の心身によって自在に支配したい。

問四　傍線部4の「そういう時間のからくり」とはどういうことか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

a　時間は充分あるのに不足しているように感じられること。

b　流れる時間と体験する時間の間に食い違いが生じること。

c　時間が目の前を川のように流れるように見えること。

d　流れる時間の中で、緊張と弛緩が繰り返されること。

問五　傍線部5について、なぜ筆者はワイエスの描く初老の男の絵を見て、自分の「うかつさ」に気づいたのか。その理由としてもっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

a　ワイエスの絵には、人間の肉体的苦痛や死への恐怖が描かれていると思っていたが、その絵には静かで安らかな生を生きる喜びが描かれていたから。

b　ワイエスは古典的な具象画家であると思っていたが、その絵は死という人間の破滅的状況をテーマにした抽象画であったから。

c　ワイエスの代表作とされる後姿の女性の絵は特に関心を引くものではなかったが、一人の初老の男をモデルにしたその絵も感興を催すものではなかったから。

d　ワイエスの絵においては、現実世界が忠実に再現されていると思っていたが、その絵にはそれが現実なのか否かがはっきりしない世界が描かれていたから。

問六　傍線部6の理由を筆者はどのように考えているか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

a　ワイエスは、彼らのように時間に追われない生活をしている人々は他にも無数にいると思ったから。

b　ワイエスは、足に障害があるクリスティーナが、時間をかけて家事をこなし、自立した生活を送っていることを立派だと思ったから。

c　ワイエスは、自然と共存し、素朴に暮らす彼らと緊密な関係を持ったので、その時間を永遠にとどめたいと思ったから。

d　ワイエスは、彼らの生活を描くことで、生と死を越えた特殊な時間を描こうと思ったから。

問七　傍線部7について、筆者のいう「安息日の印象」を与える時間として、もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

a　ユダヤ教の戒律を忠実に守る者にだけ感じられる時間。

b　人類が創造される前の混沌とした世界に流れていた時間。

c　人間を超えた神的存在に触れることのできる時間。

d　ユダヤ教の戒律の管轄外にある時間。